

## ラオスシルクの街 ビエンチャン

ラオスの首都ビエンチャンはメコン川流域に位置し、川を渡ればタイという国境の街です。16世紀中ごろに首都に定められて以来、ラオスの政治・経済の中心として、また空路・陸路のゲートウェイと発展してきました。日本との関係も深く、日本政府の無償資金協力によってできたワットタイ空港新ターミナルが現在利用されています。

ビエンチャンは、フランス植民地時代の古い建物もともとラオスに根付く仏教の寺院などが混在し、西洋と東洋が融合した独特の雰囲気を醸し出しています。そんなビエンチャンの街並みも近年大きく様変わりました。土がむき出しだった道路はコンクリート舗装で整備され、都市インフラが急速に整備されつつあります。



ビエンチャン市内の寺院



タラート（市場）

そんな中、今も昔も変わらず訪れる人を魅了し続けているのがラオスシルクです。ラオス国内で調達される良質な原料から、伝統的な手織りの技法を用いて何か月も手間かけてできあがる製品は、生産コストの抑制と効率性を至上命題として生産される産業用製品とは明らかに一線を画した品格があります。化学染料を使わず自然の染料で美しく染め上げられたラオスシルクが放つ鮮やかな光沢や張りは、それを身にまとうラオス人をより一層美しく引き立てており、伝統的衣装の持つ意志の力を肌で感じることができます。(T.M)



ラオスシルクを使った小物



スカーフ